

# 世界巡回、大阪でフィナーレ！

「光」をテーマに厳選した名品、約120点を一堂に展示

## 『テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ』開催

2023年10月26日（木）～2024年1月14日（日）  
大阪中之島美術館（大阪市北区中之島4丁目3-1）

大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区/館長：菅谷 富夫）は、英国・テート美術館のコレクションより「光」をテーマに厳選した名品約120点を一堂に展示する『テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ』を、2023年10月26日（木）～2024年1月14日（日）の期間、開催いたします。本展は、2021年から中国・韓国・オーストラリア・ニュージーランド・日本と世界巡回している大規模展で、現在東京の国立新美術館で7月12日から10月2日まで開催しており、**大阪展が最終会場**となります。

本展では、異なる時代、異なる地域で制作された作品を一堂に集め、各テーマの中で展示作品が相互に呼応するようなこれまでにない会場構成を行います。絵画、写真、彫刻、素描、キネティック・アート、インスタレーション、さらに映像等の多様な作品を通じ、アーティストたちがどのように光の特性とその輝きに魅了されたのかを検証します。また、**日本国内において大阪展でしか見ることのできない作品も展示**します。本展の詳細は、2023年8月下旬にお知らせする予定です。



### 《報道関係者お問い合わせ先》

『テート美術館展』広報事務局（TMオフィス内）馬場・永井・西坂

MOBILE:090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL:050-1807-2919 FAX:06-6231-4440 E-mail : [tate@tm-office.co.jp](mailto:tate@tm-office.co.jp)

「テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ」

展覧会ホームページ <https://tate2023.exhn.jp/>



◀アクセス  
QRコード

## 開催概要

展覧会名：テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ

会期：2023年10月26日（木）～2024年1月14日（日）

休館日：月曜日（ただし1月8日は開館）、12月31日、1月1日

開場時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

会場：大阪中之島美術館 5階展示室（大阪市北区中之島4丁目3-1）

観覧料：一般 2,100円（1,900円） 高大生 1,500円（1,300円） 小中生500円（300円）

※（）内は前売り・団体料金

※前売り券は8月28日（月）発売

展覧会ホームページ：<https://tate2023.exhn.jp/>

問い合わせ：大阪市総合コールセンター [TEL:06-4301-7285](tel:06-4301-7285)（受付時間 8:00～21:00 年中無休）

主催：大阪中之島美術館、テート美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、神戸新聞社

協賛：岩谷産業、大林組、SOMPOホールディングス、ダイキン工業、DNP大日本印刷、

大和証券グループ、三井住友銀行、三井不動産

協力：日本航空、フィナンシャル・タイムズ

後援：ブリティッシュ・カウンシル

## テート美術館とは

TATE（テート）は、英国政府が所有する美術コレクションを収蔵・管理する組織で、ロンドンのテート・ブリテン、テート・モダンと、テート・リバプール、テート・セント・アイヴスの4つの国立美術館を運営しています。

砂糖の精製で財を成したヘンリー・テート卿（1819–99年）が、自身のコレクションをナショナル・ギャラリーに寄贈しようとしたことが発端となり、1897年にロンドン南部・ミルバンク地区のテムズ河畔にナショナル・ギャラリーの分館として開館、のちに独自組織テート・ギャラリーとなりました。2000年にテート・モダンが開館したことを機に、テート・ギャラリーおよびその分館は、テートの名を冠する4つの国立美術館の連合体である「テート」へと改組されました。7万7千点を超えるコレクションを有しています。

テート・ギャラリーの本館であったミルバンク地区のテート・ブリテンは、16世紀から現代までの英国美術を中心に所蔵。ロンドンのサウスバンク地区に位置するテート・モダンは近現代美術を展示しています。



テート・ブリテン正面外観、ロンドン、ミルバンク、2006年  
Photo: Tate



セント・ポール大聖堂から見たテート・モダン、ロンドン、サウスバンク、2016年 Photo: Tate

## 1.光とアートをめぐる200年の軌跡を体感

数えきれない表情をみせる「光」をどう作品で描くのか。

新たな芸術表現を追求するアーティストたちはこの難解なテーマに向き合ってきました。本展では18世紀末から現代までの光をめぐる表現や技法の移り変わりを明らかにします。ウィリアム・ブレイクやターナー、コンスタブルから、モネなどの印象派、そしてジェームズ・タレル、オラファー・エリアソン、草間彌生ら現代アーティストまで、時代や地域、ジャンルを超えて「光の作品」を俯瞰できる会場構成です。多様な光の表現に包まれる空間にご期待ください。



ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー  
『光と色彩（ゲーテの理論）——大洪水の翌朝  
創世記を書くモーセ』1843年出品 Photo: Tate

## 2.英国・テート美術館から100点が日本初出品

本展では英国・テート美術館の7万7千点以上のコレクションから、「光」をテーマに厳選した約120点を展示します。

このうちおよそ100点が日本初出品！ターナーの死後に寄贈された世界最大級のコレクションから《光と色彩（ゲーテの理論）——大洪水の翌朝—創世記を書くモーセ》が初来日します。

また本展は中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランドで話題となってきた世界巡回展です。最終会場となる日本では、エドワード・バーン=ジョーンズ、マーク・ロスコなど人気作家による12点が限定で出品されます。ゲルハルト・リヒター『アブストラクト・ペインティング(726)』は日本初出品かつ日本特別出品作です。



ゲルハルト・リヒター『アブストラクト・ペイン  
ティング(726)』1990年 Photo: Tate  
© Gerhard Richter 2023 (10012023)

## 3.光に包まれる注目インсталレーション

会場には光を用いた大型インсталレーション（空間芸術作品）も登場します。いずれも日本初出品となるジェームズ・タレル『レイマー、ブルー』やオラファー・エリアソン『星くずの素粒子』が作り出す光の空間をご体感ください。



オラファー・エリアソン『星くずの素粒子』2014年  
Photo: Jens Ziehe, 2017, © 2014 Olafur Eliasson

### 《報道関係者お問い合わせ先》

『テート美術館展』広報事務局（TMオフィス内）馬場・永井・西坂

MOBILE:090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL:050-1807-2919 FAX:06-6231-4440 E-mail : [tate@tm-office.co.jp](mailto:tate@tm-office.co.jp)

「テート美術館展 光 —ターナー、印象派から現代へ」

展覧会ホームページ <https://tate2023.exhn.jp/>



◀アクセス  
QRコード